

# 第2回青田廻り資料

令和元年7月  
富山農林振興センター  
なのはな農業協同組合

～「R1JAなのはな米品質向上運動」実施中～  
なのはな米1等比率95%以上を継続!

現在、コシヒカリの生育は概ね平年並みで、幼穂形成期(幼穂長2mmの頃)は7月10日頃と推測されます(5月12日田植えの場合)。

幼穂長や草丈、葉色など稲体の状況を的確に把握し、適切な穂肥施用や水管理により、米品質低下(白未熟粒の発生)を防ぎましょう。

## コシヒカリの生育状況

草丈：平年より短い 茎数：平年よりやや多い 葉色：平年並み

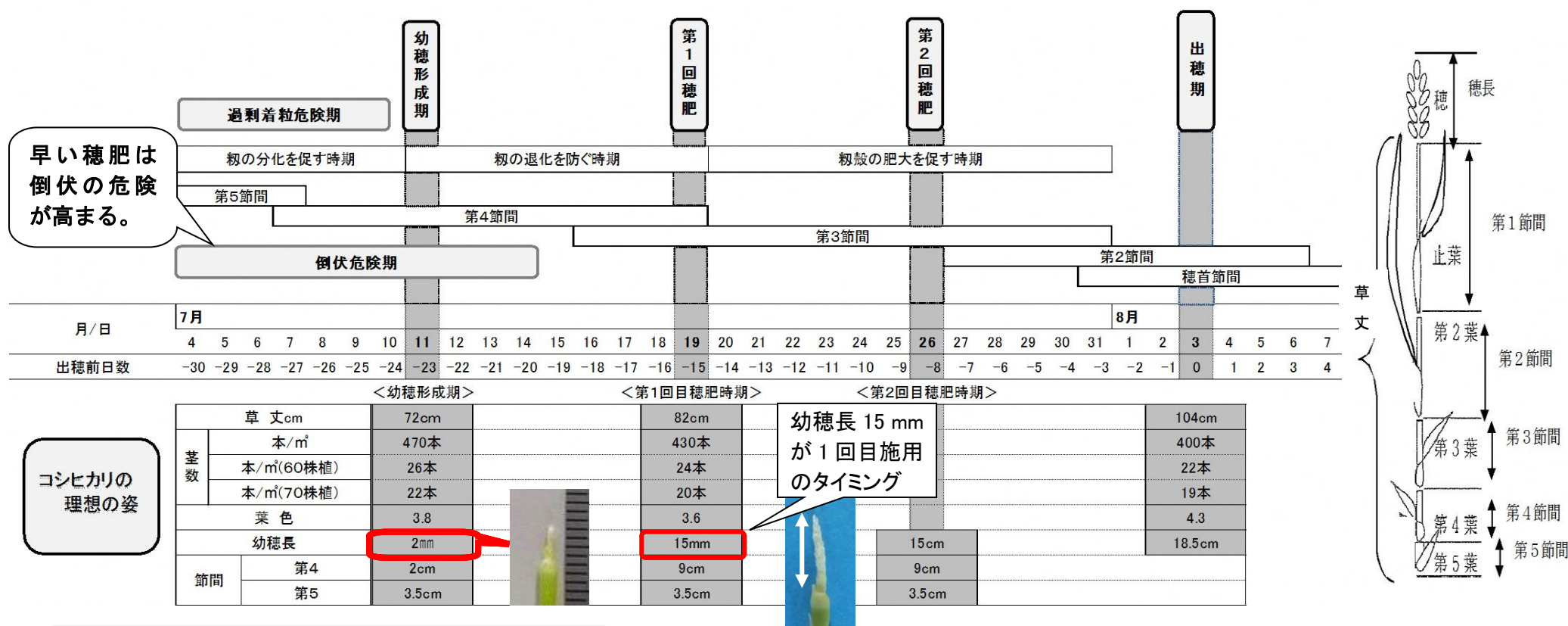
### ○コシヒカリの生育調査結果

なのはな農協管内コシヒカリ生育基礎ほ(8カ所) 7月1日調査平均

	田植日	草丈	株当たり茎数	m <sup>2</sup> 当たり茎数	葉 齢	葉 色	幼穂形成期
R 1	5月12日	55.6cm	26.5本/株	515本/m <sup>2</sup>	11.4	4.1	(7月10日)
H30	5月12日	56.6cm	28.4本/株	541本/m <sup>2</sup>	11.3	4.1	7月11日
平年	5月11日	59.4cm	26.3本/株	493本/m <sup>2</sup>	11.4	4.1	7月10日

※平年 平成21年～30年の平均値

### ○コシヒカリの幼穂形成期頃の稲姿



## 1 コシヒカリの穂肥施用

### ① 肥効調節型基肥肥料を施用している場合

**出穂7日前**(7月22～24日頃)に必ず葉色を確認しましょう。

このときに葉色が4.0(砂壤土は4.2)以下の場合は、出穂3日前までに「追肥3号」を7kg/10a施用し、登熟期間中の栄養維持を図りましょう。

登熟期間中の活力維持!

### ② 分施栽培の場合

★生育量別穂肥の目安(田植日:5/12、肥料:追肥3号)

	幼穂長15mmの生育状態			1回目穂肥		2回目穂肥		備考
	草丈	葉色	稲の姿	施用時期	施用量(10a)	施用時期	施用量(10a)	
目標	82cm以下	3.6	葉がピンと立つ	7月18日頃	10kg	1回目穂肥の7日後	10～13kg (砂壤土13kg)	
やや過剰	82～87cm	3.8程度	葉がやや垂れ気味	7月21日頃	7kg以内		10kg	1回目穂肥を3日程度遅らせ、穂肥量も減らす
過剰	87cm以上	4.0以上	葉がメラメラ	施用しない		出穂7日前(7/24頃)	7～10kg	

※最終の穂肥は出穂3日前までに終わらしましょう。

## 2 てんこもりの穂肥施用

幼穂形成期は5月10日頃の田植えで、7月16日頃と予想されます。

### ① 肥効調節型基肥資料を施用している場合

**幼穂形成期以前に葉色が4.0（砂壤土では4.2）以下の場合は、直ちに「追肥3号」を7kg/10a施用しましょう。**

また、**出穂7～10日前**（7月末～8月初頃）に**必ず葉色を確認**し、このときの**葉色が4.2以下**の場合は、「追肥3号」を10kg/10a施用しましょう。

### ② 分施栽培の場合

**1回目穂肥は、幼穂長1～2mm 頃に、遅れないように施用しましょう。**

○穂肥施用の目安（肥料：「追肥3号」）

穂肥1回目施用時の生育状態			1回目穂肥		2回目穂肥	
幼穂長	茎数（株当り）	葉色	施用時期	施用量	施用時期	施用量
1～2mm	21～25本	4.0～4.2	7月15日頃	10kg/10a	1回目の10日後	12kg/10a

## 3 今後の水管理

幼穂形成期からは全品種飽水管理を！！

《幼穂形成期から出穂期まで》  
～飽水管理で『うわ根』を活性化！～  
足跡に水が残る程度になったら入水し、水不足にならないよう注意しましょう。

《出穂期以降》  
～稲体の活力を維持し、登熟を向上！～  
出穂期から20日間は**湛水状態**（田面が出ない程度）を保ち、稲体の活力を維持しましょう。



## 4 病害虫防除

本年も、斑点米カメムシ類が多発しております！！

畦畔の草刈りを徹底し、全品種2回の**基本防除を徹底**しましょう！！

○防除時期の目安（7月1日現在の見込みです）

	防除時期 （主な対象病害虫）	薬剤名	散布量 （kg/10a）	てんたかく （7/20 出穂）	コシヒカリ （7/31 出穂）	てんこもり （8/7 出穂）
粉剤	穂揃期 （いもち病・カメムシ）	ビームキラップジョーカー粉剤DL	3～4	7/22～24	8/2～4	8/9～11
	傾穂期 ※1回目散布の7日後 （カメムシ）	トレボンスター粉剤DL	3～4	7/29～31	8/9～11	8/16～18
粒剤	出穂10日前 （いもち病・カメムシ）	フジワンラップ粒剤	4	7/10頃	7/21頃	7/28頃

※各品種の田植時期：「てんたかく」5/6頃、「コシヒカリ」5/12頃、「てんこもり」5/10頃で推定

《留意事項》

- ・防除の実施にあたっては、必ずほ場の生育状況を確認しましょう。
- ・防除の際は、農薬使用基準を正しく守るとともに、農薬飛散防止のため、風のない時に散布しましょう。

### ○粒剤（フジワンラップ粒剤）を効かせるコツ

- ・出穂10日前頃に水深5cm程度の状態で散布し、5日間湛水を保ちます。
- ・稲が田水に溶けた薬剤を根から吸収するため、湛水が必要です。
- ・薬剤の大半は、散布後3日程度で吸収されます、**少なくとも3日間は浅い湛水**を守りましょう。  
なお、田面が露出した場合は静かに必要な分だけ入水（深水は濃度が薄まり逆効果）しましょう。